

## 上顎癌術後感染症における AM-715 の使用経験

斉藤 成明 ・ 藤井 一省 ・ 三宅 浩郷\*

上顎全摘術後に創部感染を生じた10例の患者に、キノリンカルボン酸誘導体の新開発合成抗菌剤である AM-715 の投与を試み、臨床効果、細菌学的効果を検討した。

AM-715, 1日量 800 mg, 経口, 1週間投与を原則とし、菌の分離方法は、投与前と投与終了後に、24時間創部にあてたガーゼを当大学の中央細菌検査室に提出して分離同定した。

全症例で分離された菌の合計は41株であった。グラム陽性菌では、*Staphylococcus aureus*, *Alpha streptococci* が各々10例中6例、グラム陰性菌では、*Pseudomonas aeruginosa* が8例に検出された。各症例とも単一の菌ではなく、複数の菌による混合感染であった。臨床効果をみると、著効0例、有効2例、やや有効3例、無効5例と、症例の半数が無効で有効率は20%であった。

検出菌をグラム陽性菌、陰性菌に分け臨床効果をみ

ると、グラム陰性菌感染症、グラム陽性菌感染症とも有効率は0%、両菌混合感染群の有効率は100%であった。

分離菌別細菌学的効果では、*Enterococcus*, *Grampositive rod*, *Neisseria spp.* が100%の消失率と AM-715 によく反応した。*Pseudomonas aeruginosa* に注目すると、第28回日本化学療法学会総合新薬シンポジウムの耳鼻咽喉科領域のデータでは、AM-715 投与後の *Pseudomonas aeruginosa* の消失率では100%とよい効果を示しているのに対し、われわれの症例では12.5%であった。

通常われわれは上顎癌術後の創部に GM, DKB の軟膏を塗布し、充填するようにしているが、上顎癌術後の創部にいつたん感染がおきると、GM, DKB, AM-715 を使用してもなかなか制御しにくいように思われた。

## 耳鼻咽喉科感染症に対する AM-715 の治療成績

杉森 久一† ・ 佐々木 亨†† ・ 戸村 卓爾†††

耳鼻咽喉科領域の感染症30例に AM-715 を使用した。疾患は、急性中耳炎、慢性中耳炎急性増悪症、急性副鼻腔炎、慢性副鼻腔炎急性増悪症、腺窩性扁桃炎である。

投与量は、1回 200 mg を1日3回内服せしめた。

臨床効果は、全体で60%の有効率であり、グラム

陽性菌、陰性菌ともに有効例があり、4~7日の投与期間に、77.8%の有効率がみられた。

副作用は、わずかに胃腸障害1例をみたが、健胃剤の投与で軽快し、AM-715 の投与を中止するにはいたらなかった。

\* 東海大学医学部耳鼻咽喉科学教室

† 国立札幌病院耳鼻咽喉科

†† 市立旭川病院耳鼻咽喉科

††† 札幌鉄道病院耳鼻咽喉科